

2024年度 夏季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書 (単位認定希望者対象)



Glideでのlunch提



コーディネーターの方の家でのパーティーの様子



ホームステイ先での部屋

1. 参加目的

まず、世界的に見ても多大な影響力を持つアメリカという国に行ったという経験を得ることが第一の目的だった。日本との文化、環境、国民性の違いを自分の目で見ることで、様々な世界を知るという自身の人生の目標の達成に近づこうと考えた。そして、第二に、貧困層の人々との交流である。私は外交官を志しており、世界の平和に貢献できる人材になることを目指している。将来的に外交官として活動するにあたって、富裕層、貧困層、中流層問わず様々な人々と関わることになる。今回の留学がその第一歩になればいいなと考えたことも、参加を決めた要因である。そして最後に、語学力の向上である。海外に行くことは、買い物一つをとってもネイティブと話す機会となる貴重な経験である。普段英語を母語とする人々と話す機会をあまり得られていないので、スピーキング上達のきっかけになれば良いなと考えた。

2. ボランティア実習内容について

大きく分けて三つのボランティア活動を行った。まず、教会で貧困層の人々にランチを提供する活動だ。配膳、テーブルの片付け、食器を下げるなど仕事が多かったが、現地のボランティアの方々がとても優しく、楽しく活動できた。二つ目は、屋外で貧困層の人々に食糧を供給する活動。世帯ごとにもらえる数が決まっているのだが、追加を要求してくる人がいたり、貰った果物が小さいと文句を言う人が少なからずいたため、柔軟な対応力が身についたと思う。そして三つめは、学童で親の迎えを待つ子供たちの相手をする仕事だ。小学校低学年層が主で、公園の遊具で遊んだり、鬼ごっこをしたり、絵を描いたりした。子供はこちらが英語を分かるという前提で話しかけてくるので、聞き返しが難しかった。子供のアクティブさは日本と同じくらいで、どの国も変わらないのだな〜と微笑ましい気持ちになった。

3. プログラムを通して学んだこと

まず、世界には本当にいろいろな人がいるということだ。チャイナタウンで供給のボランティアをしていた時、私はスイカを渡すポジションにいた。スイカは個性差が激しく、小さめのスイカを受け取った女性ももっと大きいものが欲しいと要求してきて、それはルール上できないと断ったら怒鳴り始め、最終的には強制退場させられていた。反対に、一人暮らしだから小さいものでいいと言ってくる人もいて、貧困層と一口に言っても強欲な人から謙虚な人まで、本当に様々な人がいるのだなと実感した。世界から争いが無くなる理由が少しかけ学べたと思う。そして、とにかくチャレンジをすることが大事だということもまた学べた。言語が通じなくても対話を試みたり、まったく知らない場所にも地図を頼りに足を運んでみたりなど、様々な挑戦をする機会が多くあった。成功しても失敗しても挑戦したという事実が得られる、という経験を積むのが大事なのだと思ふ。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

全体を通じて学ぶことが非常に多く、有意義で楽しい三週間だった。アメリカで多くの人がボランティア活動を行っている理由として、政治的、経済的なもの、そして国民性が関係しているそうだ。アメリカといえば自身のことを最優先にする人々が多いイメージの国だったので、何故ボランティア活動がこれほどまでに普及しているのかずっと疑問に思っていたが、考える機会が得られて良かった。反対に、日本であまり積極的にボランティア活動が行われていない理由についても考察することができたため、この考察経験を今後の学習や就職活動に役立てていきたいと思ふ。また、ホストファミリー以外と英語を話す機会をあまり得られなかったことが心残りだが、これは次回からの海外経験に活かしたい。今後控えた留学や就職に大いに影響を与えてくれる本当に良い経験だった。